

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	松澤 秀樹		
実施年度	2019年	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	児童・家庭の生活とニーズをとらえる。児童の権利保障の概念を理解する。さらに児童・家庭福祉に関わる法制度を理解し、相談援助活動の実際を学ぶ。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				現代社会と子ども家庭環境について理解する。	
	○	○				子どもと家庭への援助活動の実際について考察できるようになる。	
		○				子どもと家庭かかわる福祉・保健活動を理解する。	
	○	○				これからの支援方法について述べるようになる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	はじめに : ソーシャルワークと子ども家庭福祉				テキストの該当ページを読んでおく	
	2	1) 1~2 子どもの家庭福祉の理念と原理				テキストの該当ページを読んでおく	
	3	1) 3~4 子どもと家庭 権利擁護と福祉の発展				テキストの該当ページを読んでおく	
	4	2) 1~2 現代社会と子ども・家庭とニーズ				テキストの該当ページを読んでおく	
	5	3) 子どもと家庭福祉の法制度①				テキストの該当ページを読んでおく	
	6	3) 子どもと家庭福祉の法制度②				テキストの該当ページを読んでおく	
	7	3) 子どもと家庭福祉の法制度③				テキストの該当ページを読んでおく	
	8	3) 子どもと家庭福祉の法制度④				テキストの該当ページを読んでおく	
	9	4) 1~2 子どもの貧困防止/母子保健				テキストの該当ページを読んでおく	
	10	4) 3 障害のある子どもと家族への支援				テキストの該当ページを読んでおく	
	11	4) 4~5 児童健全と保育				テキストの該当ページを読んでおく	
	12	4) 6~7 地域子育て支援とひとり親家庭の福祉				テキストの該当ページを読んでおく	
	13	4) 8~9 社会的養護/非行児童・情緒障害児				テキストの該当ページを読んでおく	
	14	4) 10~11 児童虐待対策/女性福祉とDV対応				テキストの該当ページを読んでおく	
15	5) 1~3 子ども家庭福祉援助活動				テキストの該当ページを読んでおく		
評価方法	成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	相談援助実習						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	180時間	担当者	大川亜由美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科2年生						
授業概要	実習指導者による指導のもと、相談援助に係る知識と技術について实际的に学ぶ。2年次の6月～9月の間、主に高齢者施設等で180時間以上の配属実習を行う。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○		○			相談援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について、具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等の体得をしている。	
	○		○			援助実習を通して、利用者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握し説明できる。	
	○		○			社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	
	○		○			総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	相談援助実習 ソーシャルワークを学ぶ人のための実習テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容・授業外学修指示					
	1	(1) 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成					
	2	(2) 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成					
	3	(3) 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との支援関係の形成					
	4	(4) 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価					
	5	(5) 福祉・保健・医療に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践					
	6	(6) 社会福祉士としての職業倫理と法的義務への理解					
	7	(7) 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解					
	8	(8) 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実践					
	9	(9) 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解					
	10	(10) 相談援助実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。					
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	実習指導者の評価を含めて総合的に勘案する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度・授業への参加 度 実習			○	◎		50%
				○	◎		50%
履修上の注意							

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30	担当者	椋原弘司		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理科 2年						
授業概要	地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の5項目のねらい -①相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解させる、②相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解させる、③相談援助の過程とそれに係る知識と技術(介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画を含む)について理解させる、④相談援助における事例分析の意義・方法について理解させる、⑤相談援助の実際(権利擁護活動を含む)について理解させる-のうち、この講義では主に②及び③について講義をすすめていく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	◎	○		○		相談援助の対象と様々な実践モデルについて説明できる。	
	◎	○		○		相談援助の過程についての知識を説明できる。	
	◎	○		○		相談援助の過程における技術を使用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	「ソーシャルワークの理論と方法」I (株ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	相談援助アプローチの概要 -心理社会的アプローチ・機能的アプローチの概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	相談援助アプローチの概要 -問題解決アプローチ・危機介入アプローチ・行動変容アプローチの概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	相談援助アプローチの概要 -課題中心アプローチ・エンパワメントアプローチ・エコロジカルアプローチの概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	相談援助アプローチの概要 -構成主義アプローチ・解決志向アプローチ等の概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	相談援助アプローチの概要 -[演習] 相談援助アプローチの実際 の理解と具体的な検討(複数アプローチ使用による検討)				教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと	
	6	相談援助の方法 -ケースマネジメント及びケアマネジメントの概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	相談援助の方法 -グループ支援の基本的性格、機能・構造				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	相談援助の方法 -グループ支援の実践原則、展開過程				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	相談援助の方法 -家族支援の概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	相談援助の方法 -[演習] 家族支援の実際 の理解と具体的(多問題家族)事例の検討				教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと	
	11	相談援助の方法 -ネットワークの概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	相談援助の方法 -地域支援(コミュニティケア)の概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	相談援助の方法 -ソーシャルアクションの概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	相談援助の方法 -[演習] ソーシャルアクションの 実際 の理解と具体的(障害者通所施設設立運動)事例の検討				教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと	
15	後期(第1回～第14回)講義内容のまとめ及び当該範囲の復習小テスト				教科書の該当範囲の復習をしておくこと		
評価方法	(1)定期試験(前期・後期一筆記試験)を実施する。(2)授業中に小テストを2回実施する。(3)事例検討・発表を4回実施する。*成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	○				10%
	発表(演習成果発表)	○	◎		○		10%
履修上の注意							

科目名	社会保障Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	宮井浩志		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理科 2年						
授業概要	社会福祉士が相談援助を行う際に必要な社会資源及び諸制度等は社会保障制度に付随しているものである。社会保障制度を活用は必須条件であり、幅広い分野の知識を獲得する必要がある。この科目では、実践に必要な諸制度の概要及び活用法を学んでいく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					各制度の概要について説明することができる	
	○					支給要件や留意事項を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	医療保険制度の理解-保険の種類や医療制度の仕組み			テキストの該当ページを読んでおく		
	2	医療保険制度の理解-診療・休職に関する費用			テキストの該当ページを読んでおく		
	3	医療保険制度の理解-出産に関する費用			テキストの該当ページを読んでおく		
	4	医療保険制度の理解-死亡に関する費用			テキストの該当ページを読んでおく		
	5	年金保険制度の理解-被保険者の種類			テキストの該当ページを読んでおく		
	6	年金保険制度の理解-老齢年金			テキストの該当ページを読んでおく		
	7	年金保険制度の理解-障害年金			テキストの該当ページを読んでおく		
	8	年金保険制度の理解-遺族年金			テキストの該当ページを読んでおく		
	9	労働者災害補償保険制度の理解-概要・認定条件			テキストの該当ページを読んでおく		
	10	労働者災害補償保険制度の理解-医療分野			テキストの該当ページを読んでおく		
	11	労働者災害補償保険制度の理解-年金分野			テキストの該当ページを読んでおく		
	12	労働者災害補償保険制度の理解-休職分野			テキストの該当ページを読んでおく		
	13	雇用保険制度の理解-概要			テキストの該当ページを読んでおく		
	14	雇用保険制度の理解-諸制度			テキストの該当ページを読んでおく		
15	全体のまとめ			テキストの該当ページを読んでおく			
評価方法	(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				90%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	精神疾患とその治療Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	東中園聡		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	精神疾患の特徴やその対処方法、現代における医療機関及び在宅で診療の特徴について症例をもとに学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					精神疾患における薬物療法について理解することができる	
	○					精神疾患の構造、外来及び在宅医療について理解することができる	
	○					精神科救急医療システムとその対応について理解することができる	
テキスト・教材 参考図書	精神疾患とその治療Ⅱ 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目オリエンテーション			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	社会構造の変化と新しい健康観			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	ライフサイクルと精神の健康			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	ストレスと精神の健康			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	精神の健康に関する心的態度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	現代日本の家族形態と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	社会的ひきこもりをめぐる精神保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	アルコール問題に対する対策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	薬物依存対策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	うつ病と自殺予防対策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	性同一性障害と精神保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	ホームレス、ニートや貧困と精神保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	認知症高齢者に対する対策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	保健師等の役割と連携			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	日本が目指すべき精神保健医療とは？			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				80%
	出席状況				◎		20%
履修上の注意	5回以上欠課した場合は単位認定(評価)を行わない						

科目名	精神保健の課題と支援 II						
科目名(英)	Challenges and support of mental health						
単位数	2	時間数	15	担当者	宗岡 誠		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	福祉心理学科 2年						
授業概要	21世紀に入り、生活環境の変化が生じてきており、心身共に健康を維持し、増進していくかという課題がある。メンタルヘルスの重要性は、現在、誰でもがしることとなり、うつ病と自殺、ストレス関連の心身症、アルコール依存症、薬物依存症、少子高齢化や、認知症などに対する、国の施策がそれを象徴している。また、児童虐待や、いじめ、犯罪被害者の心の傷やその支援者に生じるストレスへの援助、セクシャル・マイノリティー(LGBT)への理解や支援など、様々な課題がある。伝統や習慣、価値観の違いなど、地域や個人で様々な変化があり、そのことによるストレスや課題も生じている。テキストには、従来の精神疾患名(ICD-10)、DSM-5の疾患名も付記されている。テキストを熟読し、精神保健的な視点と最新の情報と知識をみにつける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○				△	精神保健の基本的概念を学び、他者に説明が行える。	
		○				精神保健の歴史と現在の状況について理解する。	
		○				精神保健を理解する上での、ライフサイクルの課題と危機を理解する。	
		○				精神保健の各課題の現状とその基本的考えかたを理解する。	
			○			精神保健において支援を行う上での基本的マナーを理解し自己向上を図る	
テキスト・教材 参考図書	新. 精神保健福祉士養成講座2「精神保健の課題と支援」中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第6章 精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。DVD、PPTを使用		
	2	第6章 精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	3	第6章 精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	4	第7章 精神保健のに関する対策と精神保健福祉士の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	5	第7章 精神保健のに関する対策と精神保健福祉士の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	6	第7章 精神保健のに関する対策と精神保健福祉士の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	7	第8章 精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	8	第8章 精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	9	第8章 精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	10	第9章 地域精神保健に関する諸活動			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	11	第9章 地域精神保健に関する諸活動			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	12	第9章 地域精神保健に関する諸活動			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	13	第10章 諸外国の精神保健活動の現状および対策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
	14	第10章 諸外国の精神保健活動の現状および対策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。PPTを使用		
15	第6章から第10章を振り返り総括			配布プリントを参照。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ								
科目名(英)									
単位数	2		時間数	15		担当者	中山かおり		
実施年度	2019		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科2年								
授業概要	精神保健福祉士は、専門職として価値を基盤に捉え知識と技術を駆使した支援が求められる。授業では、「知識」として制度とサービスを学び、精神障害者の社会的復権のために活用して、相談援助を展開できるようにする。また、歴史的な変化の中で、制度とサービスがどのように変遷したのかを学ぶ。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○			△		精神障害者の相談援助活動と法(精神保健福祉法)との関わりについて関心を持ち、理解することができる。			
	○			△		精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について把握し、利用者の現状や利用方法等について理解することができる。			
	○					精神障害者の支援において係る施設・団体・関連機関等について理解することができる。			
	○					更生保護制度と医療観察法について理解することができる。			
テキスト・教材 参考図書	1. 新・精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉に関する制度とサービス」中央法規 2. 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	オリエンテーション 授業の進め方や概要について説明				前期振り返り			
	2	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス(1) 障害者基本法				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	3	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス(2) 障害者総合支援法				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	4	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス(3) 障害者総合支援法				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	5	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス(4) 障害者総合支援法				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	6	精神障害者に関連する社会保障制度の概要(1) 医療保険制度				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	7	精神障害者に関連する社会保障制度の概要(2) 生活保護制度				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	8	精神障害者に関連する社会保障制度の概要(3) 年金制度				小テスト			
	9	医療観察法の概要と実際(1)				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	10	医療観察法の概要と実際(2)				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	11	医療観察法の概要と実際(3)				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	12	医療観察法の概要と実際(4)				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	13	相談援助に関わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域の支援者				テキストの該当ページを読んでおくこと			
	14	精神障害者に関連する社会保障制度の概要(4)精神障害者を対象とした福祉施策				テキストの該当ページを読んでおくこと			
15	精神障害者に関連する社会保障制度の概要(5)精神障害者を対象とした福祉施策				テキストの該当ページを読んでおくこと				
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)宿題・レポートを実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎					80%		
	小テスト	◎					10%		
	宿題・レポート				◎		10%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。 精神保健福祉領域に関する様々な情報に興味を持つことが必要。精神障害者の置かれている状況や実際の法律・制度について、歴史的な背景を含め理解することができるよう、授業に積極的に参加すること。								

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30	担当者	廣田 悦子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科 2年						
授業概要	1、精神医療の特性(精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む)と精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。2、精神科リハビリテーションの概念と構成およびチーム医療一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。3、精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション(精神化専門療法を含む)の知識と技術および活用の方法について理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					1、精神医療の特性(精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む)と精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。	
	○					2、精神科リハビリテーションの概念と構成およびチーム医療一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。	
	○					3、精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション(精神化専門療法を含む)の知識と技術および活用の方法について理解する。	
テキスト・教材 参考図書	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ(中央法規 第4巻)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	2	・専門精神療法 ・家族教育プログラム			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	3	・精神科デイケア ・医療機関のアウトリーチ			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	4	・チーム医療の概要 ・医療機関における多種職との協働・連携			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	5	・精神障害者支援の実践モデルの意味と内容			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	6	・代表的な精神障害者支援の実践モデル			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	7	・地域を基盤とした相談援助 ・ケース発見			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	8	・受理面接と契約 ・課題分析 ・支援計画			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	9	・支援の実施と経過の観察			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	10	・効果測定と支援の評価 ・終結とアフターケア			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	11	・面接を効果的に行う方法 ・面接技法 (1)			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	12	・面接を効果的に行う方法 ・面接技法 (2)			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	13	・スーパービジョンとコンサルテーション			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	14	・スーパービジョン 3、コンサルテーション			テキストの該当ページを読んでおくこと		
15	後期授業 振り返り			テキストの該当ページを読んでおくこと			
評価方法	①テスト(前期試験と後期試験)、②レポート、③授業中の態度(スマートフォンなどを触らない) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	宿題・レポート	◎					10%
	授業態度・参加度				◎		10%
履修上の注意	1. 国家試験に必要な科目であるため、出席は10回以上である。 2. 授業中にスマホ等を机の上に置かない、触らない。授業に必要な場合は教員が指示する。						

科目名	ピアヘルパー						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	15	担当者	富沢理恵		
実施年度	2019年	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	<p>ここ数十年で、情報化社会は発達期から成熟期を迎えつつあり、「SNSを通してのコミュニケーション」が「生身のコミュニケーション」を凌駕しつつある。「合理的で便利」な反面、「生身の人間としてのつながり」が希薄になってきていることは否めない。そのような時代背景とともに、「心理カウンセリング」の必要性は高まってきているが近年、何か問題が起こってから専門家に援助を求めるより、問題が起こらないように普段から「仲間同士」で援助しあうことのほうが効果的であるという考えが浸透してきている。「私は助けるひと、あなたは助けられひと」といったプロ意識のカウンセリングではなく、「助けたり、助けられたり」のカウンセリングである「ピアヘルパー」を「仲間同士の助け合い」の意義を特定領域(「学業領域」「進路領域」「友人領域」「関係修復領域」「心理領域」)で体験し、理解する。</p>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		ピアヘルパーの活動許容範囲と留意点が理解できる。	
	○	○		○		ピアヘルパーの活動許容範囲のうち「学業領域」でピアヘルピングを活用できる。	
	○	○		○		ピアヘルパーの活動許容範囲のうち「進路領域」でピアヘルピングを活用できる。	
	○	○		○		ピアヘルパーの活動許容範囲のうち「友人領域」でピアヘルピングを活用できる。	
○	○		○		ピアヘルパーの活動許容範囲のうち「グループ領域」でピアヘルピングを活用できる。		
テキスト・教材 参考図書	ピアヘルパー3級ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	・オリエンテーション(・ピアヘルパーⅡの振り返り・ピアヘルパーⅢの概要)			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	2	ピアヘルパー「学業領域①」			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	3	ピアヘルパー「学業領域②」			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	4	ピアヘルパー「進路領域①」			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	5	ピアヘルパー「進路領域②」			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	6	ピアヘルパー「進路領域③」			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	7	ピアヘルパー「進路領域④」			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	8	ピアヘルパー検定対策			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	9	ピアヘルパー検定対策			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	10	ピアヘルパー「友人領域」			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	11	ピアヘルパー「グループ領域」			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	12	ピアヘルパー「関係修復領域」			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	13	ピアヘルパー「心理領域」			テキストの該当ページを読んでおくこと		
	14	ピアヘルパーを現場でどう活用するか			テキストの該当ページを読んでおくこと		
15	総まとめ			テキストの該当ページを読んでおくこと			
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				90%
	出席状況				○		10%
履修上の注意	2/3以上の出席がなければ履修認定できない。						

科目名	芸術療法						
科目名(英)	arttherapy						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	屏賀 一男		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	福祉心理学科 2年						
授業概要	障害者施設や高齢者施設で、必要だと思われる分野の実技基礎演習を実践する。各分野に於ける造形の専門的知識や色彩・構図・教材の特性を知るうえで、平面表現・立体表現を問わず、教材・用具の使い方と安全確保・後片付けについて学ぶことは不可欠である。また、現代の時流に合った教材を用いた具体的な実践演習、造形表現教育についても理解する。						
授業形式	講義:	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					美術に対する苦手意識を克服することで現場での自分の役割を理解することができる。	
	○					図画・造形表現を体験することで、画材・教材の特徴・性質を理解することができる。	
	○					日本古来の伝統工法を体験することで、感受性・創造力・集中力を養うことができる。	
	○					個性的な表現力のために、思考能力を発揮し、自己の文章・言葉で説明できるようになる。	
○					自己表現する能力を深めることで、豊かな感性と人間性を身につける事ができる。		
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	フィンガーアート			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	2	スクラッチ画			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	3	ウエルカムボード①			今回の授業を踏まえ、制作部品を考案する。		
	4	ウエルカムボード②			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	5	色紙による感情表現			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	6	マーブリング染め			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	7	ダンボールアート①			今回の授業を踏まえ、制作部品を考案する。		
	8	ダンボールアート②			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	9	鉛筆のグラデーション①			今回の授業を踏まえ、グラデーションの練習をする。		
	10	鉛筆のグラデーション②			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	11	ポスターの制作①			今回の授業を踏まえ、制作部品を考案する。		
	12	ポスターの制作②			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	13	ダンボールbox①			今回の授業を踏まえ、制作部品の制作をする。		
	14	ダンボールbox②			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	15	水墨画			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
評価方法	(1)レポートを10回以上提出する。(2)作品・レポートが未提出の場合は追加課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	◎	○		◎		30%
	発表・作品	○	◎		◎		70%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、科目履修認定を行わない。						

科目名	精神保健福祉援助演習 I						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	15	担当者	中山かおり		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握することが必要である。精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、実践的に習得する。						
授業形式	講義	○	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				精神障害者の生活や生活上の困難について理解できる	
		○		△		相談援助に係る基礎的な知識と技術について、実践的に理解できる	
テキスト・教材 参考図書	適宜、資料配布 (参考:新・精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習(基礎・専門)」 中央法規)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 授業の進め方や概要について説明				教材の準備	
	2	利用者理解					
	3	精神障害者への特性の配慮(1)					
	4	精神障害者への特性の配慮(2)					
	5	援助関係の理解(1)					
	6	援助関係の理解(2)					
	7	記録の理解					
	8	事例:薬物・アルコール依存(1)					
	9	事例:薬物・アルコール依存(2)					
	10	事例:薬物・アルコール依存(3)					
	11	基本的な面接技術(1)					
	12	基本的な面接技術(2)					
	13	総括					
	14	フォーラム参加					
15	フォーラム参加				レポート		
評価方法	レポートを実施する。参加度(欠席・遅刻には厳しく対応。授業への取り組み状況を重視)。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート				◎		20%
	授業態度・授業への参加度				◎		80%
履修上の注意	精神保健福祉に限らず、社会福祉士指定科目や相談援助演習、相談援助実習での体験など、これまで学んだことの復習をして理解を深めておくこと。						

科目名	精神保健福祉援助実習指導 I							
科目名(英)								
単位数	4	時間数	30	担当者	中山かおり			
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○			
対象学科・学年	福祉心理学科2年							
授業概要	精神保健福祉援助実習の意義について理解できるよう、精神障害者の置かれている現状及びその生活の実態や生活上の困難について授業を行う。「実習要綱」「実習日誌」等を利用し、集団指導及び個別指導を通して実習に必要な知識や技術の確認、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題について、学生自身が考える授業を行う。							
授業形式	講義	△	演習:	○	実習:	△	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
		○		○		精神保健福祉援助実習の意義について理解できる。		
		○		○		精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解できる。		
		○				精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解できる。		
				○		精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。		
テキスト・教材 参考図書	実習生必携「ソーシャルワーク実習ノート」 株式会社みらい 実習日誌 適宜、資料配布							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 授業の進め方や概要について説明				教材の準備		
	2,3	利用者理解						
	4,5	実習を行う施設等に関する基本的理解						
	6,7	見学実習オリエンテーション						
	8,9	見学実習						
	10~12	見学実習振り返り				レポート		
	13,14	実習報告会への参加				レポート		
	15,16	事前学習						
	17,18	プレ実習 実習計画書作成指導						
	19,20	プレ実習						
	21,22	プレ実習後指導(実習日誌への記録内容及び記録方法に関する理解)				レポート		
	23,24	実習計画書等作成				作成書類の提出		
	25,26	事前訪問						
	27,28	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務、実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解						
	29,30	実習前指導						
評価方法	宿題・レポートを実施する。また、実習前において個別・集団指導を行う。参加度(欠席・遅刻には厳しく対応。授業への取り組み状況を重視)。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	宿題・レポート				◎		50%	
	授業態度・授業への参加度				◎		50%	
履修上の注意	演習 I、精神保健福祉の制度とサービス II と関連して進めていく。次の課題を全て達成しており実習の準備ができていることが「精神保健福祉援助実習 I」の条件となる:①見学実習、②3年生の実習報告会への出席、③プレ実習、④プレ実習後指導、⑤個別・集団面談。							

科目名	就職実務 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大川亜由美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	社会人になる上でのマナーや身嗜み、教養知識を身につける。まずは、就職活動における企業研究・履歴書添削・面接指導を行い就職内定へ繋げる。また、クラスや学科行事を行い学科・学年を跨いで交流を深める事でコミュニケーション力向上や協調性を身につけ業界へ適した人材育成に繋げる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		業界に適した清潔感のある身嗜みをし日常的に維持することができる	
				○		社会人としてのマナー(挨拶・電話・メール・態度など)を身につけ実践することができる	
	○					就職活動における報連相を素早く行うことができる	
	○					好感のもてる表情や口調で自身の伝えたいことを話し、企業の求める人材像に相応した面接ができる	
			○			自身の立場をわきまえて行動し、周囲へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック、求人票、受験者報告書、配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「就職」を考える			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	2	就職環境を知ろう①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	3	就職環境を知ろう②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	4	自己分析とキャリアプランニング①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	5	自己分析とキャリアプランニング②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	6	仕事のことを研究しよう①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	7	仕事のことを研究しよう②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	8	自己表現①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	9	自己表現②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	10	企業・施設アプローチ①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	11	企業・施設アプローチ②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	12	就職研修①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	13	就職研修②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	14	就職研修③			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
15	就職研修④			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと			
評価方法							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度				◎		50%
	意欲・努力				◎		20%
	提出物状況				◎		30%
履修上の注意	出席が2/3未満の場合は評価対象外となる。						

科目名	精神保健福祉援助実習 I						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	120時間	担当者	中山かおり		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	病院において精神科医療ソーシャルワーカーとして勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科2年						
授業概要	実習指導者による指導のもと、精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について实际的に学ぶ。2年次の2月～3月の間に精神科医療機関等では90時間以上、地域の障害福祉サービス事業を行う施設等で120時間以上の配属実習を行う。						
授業形式	講義	△	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について、具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等の体得をしている。	
		○		○		精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握し説明できる。	
		○		○		精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	
		○		○		総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	精神保健福祉援助実習日誌						
授業計画	授業項目・内容・授業外学修指示						
	<p>1. 精神科病院等の病院において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。</p> <p>(1) 入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助</p> <p>(2) 退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助</p> <p>(3) 多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助</p> <p>2. 精神科診療所において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。</p> <p>(1) 治療中の患者及びその家族への相談援助</p> <p>(2) 日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助</p> <p>(3) 地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助</p> <p>3. 学生は、地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。</p> <p>(1) 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</p> <p>(2) 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成</p> <p>(3) 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との支援関係の形成</p> <p>(4) 利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価</p> <p>(5) 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際</p> <p>(6) 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解</p> <p>(7) 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</p> <p>(8) 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際</p> <p>(9) 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p> <p>4. 精神保健福祉援助実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。</p>						
評価方法	実習指導者の評価を含めて総合的に勘案する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度・授業への参加態度		○		◎		50%
	実習		○		◎		50%
履修上の注意	「精神保健福祉援助実習指導 I」における課題を全て達成していることが履修の条件となる。						

科目名	スクールソーシャルワーク演習					
科目名(英)						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	笠木順一	
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	福祉心理学科2年					
授業概要	現場で働くスクールソーシャルワーカーとして必要な知識である、学校内システム・教育委員会・市町村・地域組織について学ぶ。また具体的な展開方法として、アセスメント・チームアプローチ・ネットワーキング等のあり方について学ぶ。さらに、事例研究を通して、社会福祉の専門家が学校内に存在する意義と効果について考察する。					
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	
					実技:	
					※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	△				子ども(学校)が抱える課題に対する理解を深めることができる
	○	△				スクールソーシャルワークの意義について考えることができる
	○	△				スクールソーシャルワーカーの役割、視点、実践を知ることができる
	○	△				アセスメントの重要性を理解することができる
○	△				協働や連携について知ることができる	
テキスト・教材 参考図書						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	児童家庭福祉に関するスクールソーシャルワーカーの社会的使命と価値			シラバスを事前に確認すること	
	2	学校アセスメント事例－学校における支援事例			配布した資料を読んで、疑問点を確認しておくこと	
	3	地域アセスメント事例－地域の社会資源、教育委員会などに関連した事例			配布した資料を読んで、疑問点を確認しておくこと	
	4	家庭におけるアセスメント事例－具体的な事例に対応できるスキルの習得			配布した資料を読んで、疑問点を確認しておくこと	
	5	地域におけるアセスメント事例－アセスメント、プランニング、アウトリーチについて			配布した資料を読んで、疑問点を確認しておくこと	
	6	メゾプラクティス－学校におけるチームアプローチとは			配布した資料を読んで、疑問点を確認しておくこと	
	7	メゾプラクティス－教育と福祉を繋ぐマネジメント			配布した資料を読んで、疑問点を確認しておくこと	
	8	メゾプラクティス－学校におけるケースカンファレンス			配布した資料を読んで、疑問点を確認しておくこと	
	9	メゾプラクティス－行政や公教育、保健、医療との協働			配布した資料を読んで、疑問点を確認しておくこと	
	10	マクロプラクティス－市町村の子ども相談体制			配布した資料を読んで、疑問点を確認しておくこと	
	11	マクロプラクティス－福祉・教育協働の相談体制			配布した資料を読んで、疑問点を確認しておくこと	
	12	マクロプラクティス－開発機能の意義と実践			配布した資料を読んで、疑問点を確認しておくこと	
	13	記録の重要性			配布した資料を読んで、疑問点を確認しておくこと	
	14	スーパービジョン、評価			配布した資料を読んで、疑問点を確認しておくこと	
15	総括－これまでの復習を行い授業の理解を深める			配布した資料を読んで、疑問点を確認しておくこと		
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	レポート	○	◎			
	意欲・出席				◎	
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。					